

短歌

令和六年度
阿南市春季短歌誌上大会 選

入選

「泣かないで！ひとりぼっちじゃないんだよ」澄んだ空からお日様の笑む
手塚都樹子
畦道をのぞく下校の一年生「つくし、つくしよー」
と弾む声あぐ
棚野 久子
手際良く板樋に滑らす古瓦埃をのせて若きらの汗
粟田 佐知
もうぎゅつと抱き締めることもなくなりて乙女さ
びゆく十七歳の子は
木内 照代
韓ドラのヒロイン悩ます疫病は五百年経ても尽きることなし
森 マスミ
運転する朝に替へたる炊事場のタオルの蛙けふはウインク
浅海 弥生
数式に顔を埋める十五歳総合選抜受験日かし
竹田 雪湖
人を踏え歌を唄えば唇に紅はいらぬとマスクのつぶやき
松村三千代
子の病我が年忘れ気にかかる母の悩みは尽きぬものらし
湯浅 節子
おう寒と思わず抱く両の手に主張するがに固き乳房が
西條 悦子
美容師を目指す生帆ちゃん褒めてやる敢闘賞なり技能五輪で
宮城 幸子
ふる里の家を守る義姉のいて「いつでも来いよ」の笑顔がうれし
高尾 久枝

俳句

阿南市俳句連合会 選

朝涼し髪を束ねて庭仕事
柏木 暁代
滴りを柄杓で受ける峠越
近藤ヤス子
聞き留めて続けざまなる初河鹿
田中 栄子
蟬生る底の破れし土のうかな
吉崎 晶子
神の氣に一礼するや山開き
前原 真理
古希となりあまる自由や夏木立
東明 陽子
のんびりと喧騒逃れ夜釣舟
森 伸
芋太るマルチを竹で畝高く
藤崎 恵竹
万緑の木々の揺らぎや無人駅
鳥海 勇二
炎天や浜への扉五六カ所
大西 裕子

川柳

阿南川柳会 選

茶の味も妻の機嫌で変わる朝
神野 鈴代
好きですが花火の音にかき消され
近藤 大地
独り住むことにも慣れた日記帳
鈴木レイ子
若いわね後期高齢褒めあつて
篠原 良子
句読点どこで打つやら迷う古い
西田 修身
早や二十才花火の音に泣いた子が
若木アヤ子
段々と輪が欠け孤独深くなる
渡邊ろまん
慌てない予定スマホにチャント指示
野口 吾朗

一般応募

命日の母へ感謝で洗う墓
島尾美津子
空港もビーチの様な身なりして
武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

北ノ脇海岸
砂白松青北脇濱
淡紅拾貝手中春
可憐透徹清漪側
暫且徜徉一散人
吉形 和恵

夏花清爽
牽牛花遍映蒼苔
淺紫深紅取次開
清爽薔薇誇美妙
總維含露早涼催
高橋 静雄

秋夜
西風瑟瑟到窓前
獨占良宵雨後天
時停詩筆懷鄉友
征雁連聲雲月邊
大野シゲ子

